

2023年度からスタート! 地域移行でどう変わる?

「学校運動部活動」



現在、スポーツ庁で、①中学校などの生徒に魅力的なスポーツ環境の実現、
②地域住民に向けたスポーツ環境の整備、この両観点からめざすべき
地域スポーツ環境、また、地域スポーツ振興の観点から地域移行
でほかにもどんな効果が期待できるのか議論されている。大きく変わ
ろうとする日本のスポーツ環境、その詳細を追う。



(新連載)
第1回



「運動部活動の現状に迫る①」 「どうにもあるのか」学校での活動課題

中学生の人口が大きく減少、
深刻な部員不足
次年度から休日の運動部活動
の段階的な地域移行が始まりま
すが、なぜ、今なのか。現状、学校
側の課題はどこにあるでしょ
うか。

まずは、活動の中心となる生徒
側からの視点で考えてみます。少
子化が叫ばれ久しくなります
が、実際、第2次ベビーブームの世
代が中学生であった1986年
時の中学生は約590万人。対
して現在は約295万人と半分
近くまで減っています。



部活動にあるさまざまな楽しみ方のスタイル。その実現に向けても……(写真/cba-ピクスタ)

私も当時生まれた40
代後半ですが、40代、30
代ぐらいの保護者世代
は、中学校には生徒が何
百人もおり、部活動もた
くさんある学校生活を
送ったものの、今は昔。今
では、特に集団競技の部
活動は、試合に出るメンバーをそ
ろえるのがやつとで、レギュラーで
さえ初心者ということも。部内で
紅白戦なんてとてもできないとい
う状況の学校が増えていきます。
以前、私は横浜市(神奈川)の
公立中学校で校長を務めたこと
がありましたが、人口の多い横浜
でさえ部活動の小規模化は進み、
年度末に校長同士で話すと、何
とか来年は部活動を維持できそ
うだ、そんな話題が上るほど。こ
れが地方の中山間部なら、より厳
しい現実があるでしょう。



解説/藤岡謙一
スポーツ庁政策課前学校体育室室長

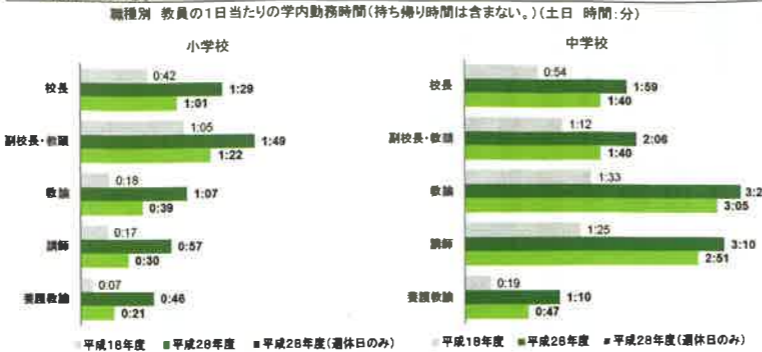
が、子どもたちのニーズに添えて
部活動を新しくつくる余裕は学
校にはなく、現状の部活動を維持
するのにも精いっぱい。部活動は
存続の危機にあり、まさに、待た
なしの状況です。

膨大な時間外勤務、 求められる下準備

一方、教員の側はどうでしょう?
部活動に対する考え方は教員そ
れぞれですが、客観的事実と
してそこに費やされている時間は
非常に大きくなっています。
2016年の文部科学省の調査
では、運動部顧問の超過勤務時
間は長く、月(30日換算)平均
110時間にもなります。過労
死のラインは単月で100時間
超、複数月なら80時間超ですか

5. 1日当たりの勤務時間の時系列変化②(職種別:土日)

- 土日の勤務時間について、職種別に平成18年度と比較すると、いずれの職種でも勤務時間が増加している。
- 土曜日・日曜日のいずれかが勤務日に該当する者(土曜授業等)の回答を除いても、勤務時間が増加している。



※勤務時間については、小数点以下を切り捨てて表示。
※平成18年度は、第5回の集計結果と比較。平成18年度は、「週休日」のデータと比較。
※「平成20年度(週休日のみ)」については、土日の勤務記録のうち、「勤務日」と回答した者を除いたものである。平成20年度の小学校教員のうち882人(12.5%)、中学校教員のうち719人(8.9%)が、土曜日・日曜日のいずれかを勤務日に該当している。
※「教諭」については、平成20年度調査では、主幹教諭・指導教諭を含む。(主幹教諭・指導教諭を含む)

【出典】文部科学省「教員勤務実態調査(平成28年度)(確定値)」について

で、心身ともに
に過酷な状況
にあります。
もう一つ、今
日の教育現場
は、生徒個々
に導いた指
導、ICT(情
報通信技術)
による充実し
た授業など、
教員に求めら
れるものはと
ても広く、そ
の準備にも追
われていま
す。仮に部活
動のためにそ
の準備が十分
でなければ、
生徒にも不幸
ですが、教員
側にも忸怩たる
思いが募ります。
少子化で学校規
模が縮小し、
生徒も教員も減
っています。教員
が多い時代は部活
動も、複数の顧
問で分担もでき
ました。今は、二
人の教員で二つの
部を担当できれ
ばいい方で、一
人で二つの部や、
複数の部を担当
することもあり
ます。
運動部活動は、
多くの生徒にス
ポーツの機会を
提供し、生徒の
健全育成などで
、とても大きな
成果

今の時代に求められる スポーツ活動の姿

生徒の自発的活動として始
まった部活動は、社会情勢の変化
に合わせてその姿を変えてきま
した。
1964年に開催された東京
オリンピックに向けて競技力向上
が重視されるようになり、また、80
年代に学校が荒れるようになる
と生徒指導の環という面が強
なつていきました。

では、生徒のスポーツ活動とし
て、今はどのような姿が求められ
ているのでしょうか。キーワード
の二つは「多様性」だと思います。
学校には、スポーツが大好きな生
徒もいれば、運動が苦手な生徒、
障がいのある生徒など、多様な生
徒がいます。私が校長をしていた
とき、一人の特別支援学級の生徒
が運動部に入部しました。学校

ずっといつまでも 愛せるように、今

人生100年時代。子どもた
ちが将来、健康で長生きするため
には、若いときだ
けでなく、生涯に
わたってスポーツ
に親しむことが
大切です。中学生
のときに大会でど
んなにいい成績を
残しても、大人に
なったらスポーツ
をやめてしまふ、
それでは意味が
ありません。いつ
までもスポーツを
続けてほしい。中

さらに! その指導力、 ぜひ地域のスポーツクラブで

今、学校の部活動で顧問をしている教員の方々のなかには、強い熱意や高い能力がある人も少なくありません。このような方々には、今後は、ぜひ地域の活動で活躍してほしいと思っています。兼職兼業の許可を得れば、土日に報酬を得て地域のスポーツクラブなどで指導することも可能です。
熱意や能力のある教員の方々には貴重な人材。ぜひ、地域でのスポーツ活動にお力を貸していただき、地域の子どもの成長を支えてほしいと考えています。